

中日新聞に、お母さんを題に一言という面白い記事がありました。お母さんごめんさい、本当は、おばあちゃんが大好きです。」とあり、おばあちゃまも頑張って見えるなあと思いました。何時まで続くかは疑問ですが、**三世代揃った家族**の談話でしょう。ほほえましく感じるのは。

心と身体は**一対**のもので海と海水のようなものである。波風によって海は荒れ狂うこともあるのだ。人の悩み、又、しかり。すさんだ心からは人を勇気づける言葉は出てこないでしょう。逆に私は悩みを持つ人々を勇気づける言葉を言える人は最高であると思います。法然上人様のお念仏が大衆に受け入れられたのは**念仏を称える事によって心の安らぎをもたらした**ことに因るのでしょう。人間、苦あれば顔に現れます。たとえ顔を隠しても**魂の叫び**は後ろ姿に出してしまうものです。終戦後の動乱期を家族の為に耐え忍んで頑張り、生活を支えて見えたご先祖様でも丁重に供養を受けて見えるかと思いきや忘れ去られていくのです。家庭が大きな集団を形成し、社会を構築していきます。家庭の延長線にある社会が時代を忘れるのは仕方ない事だと思えて来るのです。信仰心の敬いが消え、身とかけ離れた結果でしょう。経済の発展と心身の啓発が共に成長しなかった結果でしょう。

第203号で昭憲皇太后御歌 金剛石」の一節を載せたが、**禅の言葉に 把手共行**」と言って、友達や交流のある人々と共に手を取り合って行動しましょうと言う事です。勿論分別をわきまえた上での事です。法句経 藤吉慈海師訳)に、**悪しき友と交わるな**れ いやしき人をも侶とせざれ

こころ清き友と交わるべし 上士を侶とせよ」とあり、参考にされたかとも思えるのです。又、善きことには 急ぎ赴くべし 悪しきことに向かいては心を守るべし 功德を作すに 心うきものは 悪のなかに 心溺るるなり」と、**善い事をしよう**としない人は既に**悪の中に溺れ始めていますよと、注意を促して見えるのです。注意を怠れば 悪の果実**はまだ 熟れざる間は 悪しきを作せる人も **幸福を見ることあるべし** **されど悪の果実熟するに至らば** **その人ついに 不幸に逢わ**んと最後は善者に軍配が上がるのです。はき違えた欲望を持たない事です。

中村 元師の訳によれば ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によって作り出される。もしも汚れた心で話したり行ったりするならば、**苦しみはその人につき従う**。身体によって善いことを為し、言葉によっても心によっても善いことをするならば、**その人はこの世でも、またかの世でも幸せを得るであろう。**」と、心の運び次第で人生の道程が決まってくるのだと思います。

日蓮上人を崇拜する、石上みね女史の本に 仏教の基本は**食べて、寝て、出す**」。即ち仏教は肉体の健康維持を基本に考えるのです。腹が減ったら減った時に食べるのでは無く、寝たく成ったら何時でも寝るのでは無く、先ず第一に、時を守り、規則正しい生活習慣を築くことにあります。ある方に日蓮上人が出されたご返事に 月は山より出でて山を照らす。**わざわいは口より出でて身をやぶる。さいわいは心より出でて我をかざる**」と、意おのずと理解できました。

○彼岸法要は十九日です。お忘れ無きよう宜しくお願い致します。